科目ナンバリング	U-LAS52 10004 LJ22						
授業科目名<英訳>	博物館情報・メディア論 Museum Informatics from Archival Practice			担当者所属職名・氏名	総合博物館　講師　　五島　敏芳		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	学芸員課程			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

［概要］コンピュータやネットワークといった情報通信技術（ICT）は，博物館の世界においても不可欠の要素となった。博物館資料管理におけるさまざまなデータ・情報や，それを表現した視聴覚メディアを，ICTを用いてどのように生成し活用するかについて考察する。理論や知識を学習するだけでなく，アーカイブズや図書館を含む事例を参照し，受講者各人の専門にそくした館園等で応用し実践する力の習得を目指す。
［目的］この講義のねらいは「博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し，博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う」（後掲関連URL「学芸員養成の充実方策について（報告）」参照）ものとする。ただし，具体的にはアーカイブズにおける講義担当者の経験を素材とし，受講者には各人の専門における適用を考察してもらう。この議論をとおして，この講義のねらうところへ到達することを目指す。

[到達目標]

本科目の大きな到達目標は「目的」に記したとおり。より詳細には，つぎのようなことを到達目標とする。
○博物館における〈情報〉の意義・位置・多様性を把握する。
○博物館で活用可能なICTの状況把握の特質・必要性を認識する。
○博物館活動なかんずく収蔵資料管理におけるドキュメンテーションの理論・方法を学ぶ。
○ICTを活用した収蔵資料のデジタル化やデジタルデータ管理の理論・方法を学ぶ。
○ICT活用に関する課題，知的財産権等についての基礎的知識を得る。
○ICTを活用した展示・広報を含む多様な博物館の情報発信とその重要性を理解する。
○博物館活動やその担い手たちの情報流通のあり方を考察する。

[授業計画と内容]

この講義にもとめられる内容は，つぎのとおりである。
○博物館における情報・メディアの意義.
　・情報の意義(メディアの理論と歴史を含む).
　・メディアとしての博物館(メディアの発展と博物館).
　・ICT社会の中の博物館(情報資源の双方向活用と役割，情報倫理，学校・図書館・研究機関の情報化等).
　・情報教育の意義と重要性.
○博物館情報・メディアの理論.
　・博物館活動の情報化(沿革，調査研究活動，展示・教育活動等).
　・資料のドキュメンテーションとデータベース化.
　・デジタルアーカイブの意義・方法・課題.
　・映像理論，博物館メディアの役割と学習活用.
○博物館における情報発信.
　・情報管理と情報公開.
　・情報機器の活用(情報端末，新たなメディア経験等).

博物館情報・メディア論(2)へ続く↓↓↓

博物館情報・メディア論(2)

・インターネットの活用.
○博物館に関する法と権利.
・知的財産権(著作権等).
・所有権.
・個人情報(肖像権等).
・権利処理の方法.
この講義では，各項にみえる「博物館」の語を，「アーカイブズ」または「文書館」へ置き換えた話題を主に提供する。その前提として，アーカイブズにおける資料管理の基本原則等にもふれる。しばしば博物館の世界でもMLA連携を耳にする。Mは博物館MuseumのM，Lは図書館LibraryのL，Aは文書館（アーカイブズ）ArchivesのAである。このうちAについては，その内容がよく知られているとは言い難い。それでもなお，なぜ博物館や図書館との連携対象とされるのか。これを念頭におきつつ議論を進める。
なお，上掲の内容は，講義回数と一致しない。

［授業計画概略］※受講者数により演習形式をとる等の変更の可能性がある。
第1回，講義全体の紹介．「博物館情報・メディア論」の位置，用語説明等.
第2〜3回，博物館における情報・メディアの意義．情報の意義，ICT社会の中の博物館等.
第4〜8回，博物館情報・メディアの理論．博物館活動の情報化，資料のドキュメンテーションとデータベース化，アーカイブズ・デジタルアーカイブ，映像の位置・活用等.
第9〜11回，博物館における情報発信．情報機器，インターネット，博物館情報システム等.
第12〜13回，博物館と知的財産．著作権，二次利用等.
第14回，博物館情報のネットワーク．人・団体のネットワーク，情報ネットワーク等.
《期末試験》
第15回，フィードバック.

［授業実施の方法］
○授業のうち1回は総合博物館での授業（「授業外学修」1項参照）を予定している。（受講者数により実施せず通常の教室での授業となる可能性もある。）

[履修要件]

本科目は，「大学における学芸員養成科目の改善」（後掲関連URL「学芸員養成の充実方策について（報告）」参照）の科目順序の，8番目に位置している。このことの意味を，受講生自身よく考えたうえで受講されたい。本科目は，博物館活動全般（経営，資料管理，資料保存，展示，教育等）にわたる内容を持つ。
「生涯学習概論」（本学では「生涯学習概論IまたはII」）や「博物館概論」（本学では「博物館学I」）は，かならず事前に履修しておくものとする。
「博物館資料論」（本学では「博物館学III」）「博物館資料保存論」「博物館展示論」は，履修されていることが望ましく，すくなくともおよその内容を理解している前提で話を進める（他の科目で出現する用語の解説を再説しない）。

[成績評価の方法・観点]

(1)講義への参加状況，(2)定期試験，(3)課題・レポートにより総合的に評価する。
(1)には(3)の一部だけでなく時間中の設問・課題等への回答が含まれる。(2)の定期試験は，原則として数問の論述式の内容とする。回答が講義や教科書，配布資料等をもとに考察されているかどうかにより採点する。(3)の課題・レポートは，グループの単位で議論しその成果を発表するもの，および／または，調査・見学した内容を指定の様式で各人が報告するもの，とする。
(1)〜(3)の配点の割合は，原則として，(1)を2割，(2)を5割，(3)を3割とするが，詳細は講義において示す。
注）(3)のグループ課題の過去例：索引作成，博物館資料情報の集約・共有・公開の方法の検討，グループを館園に見立てそこで使う情報システムの検討，オンライン展示の構想。

博物館情報・メディア論(3)へ続く↓↓↓

博物館情報・メディア論(3)

[教科書]

大堀 哲, 水嶋英治編著. 『新博物館学教科書3 博物館学Ⅲ : 博物館情報・メディア論＊博物館経営論』（東京 : 学文社 , 2012.11.）ISBN:978-4-7620-2286-9（[本学所蔵] https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB04347980 ）

●上記の教科書は，講義担当者の主として参照する文献としてあげておく。※内容に古い部分を含むが科目の趣旨・骨子に適合する。適宜下掲「参考書等」のうち出版年の新しいものの事例等を参照のこと。

●講義では，配布資料も用いる。配布資料は，原則として再配布しない（欠席した回の配布資料は，残部がなければ，受講生各人が他の受講生より複写をお願いする等みずから入手することをもとめる）。

[参考書等]

（参考書）

E.Orna, Ch.Pettitt著 ; 安澤秀一監修 ; 水嶋英治編訳. 『博物館情報学入門』（東京 : 勉誠出版 , 2003.6.）ISBN:4-585-00172-7（※平成24年度～平成25年度 [2012/2014] 教科書. [本学所蔵] https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB01523850 ）

安澤秀一, 原田三朗編著. 『文化情報学 : 人類の共同記憶を伝える』（東京 : 北樹出版 , 2002.6.）ISBN:4893848666（[本学所蔵] https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB01286168 ）

今村信隆 編. 『博物館を動かす』（東京 : 京都造形芸術大学東北芸術工科大学出版局藝術学舎 , 2017.）ISBN:9784909439055（[シリーズ] 博物館の歴史・理論・実践, 2. 「博物館情報・メディア論」を含む. [本学所蔵] https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/EB06425373 ）

加藤有次 [ほか] 編. 『博物館情報論』（東京 : 雄山閣出版 , 1999.8.）ISBN:463901631X（[本学所蔵] https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB00569249 ）

Martin R. Kalfatovic. 『Creating a winning online exhibition : a guide for libraries, archives, and museums』（Chicago : American Library Association , 2002.）ISBN:0-8389-0817-9（[参考] https://archive.org/details/creatingwinningo00kalf_0 ）

水嶋英治,田窪直規, 田良島哲, 宮瀧交二, 毛塚万里. 『ミュージアムの情報資源と目録・カタログ』（東京 : 樹村房, 2017.1.）ISBN:9784883672738（[シリーズ] 博物館情報学シリーズ, 1. [本学所蔵] https://kuline.kulib.kyoto-u.ac.jp/opac/opac_link/bibid/BB05308658 ）

●このほかは，講義のなかで指示する。

最後にあげた文献を含む「博物館情報学シリーズ」†は，他の巻も参照のこと。

†[本学所蔵] https://kuline.kulib.kyoto-u.ac.jp/opac/opac_link/bibid/BB05308656

●なお，講義の直接の素材とする「アーカイブズ」「文書館」については，さしあたりつぎをあげる。

安澤秀一『史料館・文書館学への道 : 記録・文書をどう残すか』(吉川弘文館, 1985年)(ISBN: 4642070812).

ウイリアム・ベネドン著 ; 作山宗久訳『記録管理システム』(勁草書房, 1988年)(ISBN: 432600004X).

国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学（上・下）』(柏書房, 2003年)(ISBN: 4760124233).

（関連ＵＲＬ）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/gaiyou/1246188.htm(学芸員養成の充実方策について（報告）. 文部科学省設置「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」, 2009年2月. 報告PDFのうち「別紙2」を参照.)

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shinko/about/pdf/94072501_01.pdf(文化審議会第 5 期博物館部会. 大学における学芸員養成課程の科目のねらいと内容について. 文化庁, 2024年3月.)

博物館情報・メディア論(4)へ続く↓↓↓

博物館情報・メディア論(4)

https://www.getty.edu/publications/intrometadata/glossary/(**（用語・メタデータ）**Introduction to Metadata (Online). ver.3.0. **とくに**Glossary**の部分を参照．**)
https://collectionstrust.org.uk/spectrum/(**（ドキュメンテーション標準）**SPECTRUM.)
https://cidoc.mini.icom.museum/standards/cidoc-standards-guidelines/(**（博物館関係国際標準類）**Standards and guidelines. CIDOC, ICOM. [**後掲**IGMOI, LIDO**等へのリンクあり**.])
https://cidoc.mini.icom.museum/wp-content/uploads/sites/6/2020/03/guidelines1995.pdf(**（標準類，内容）**CIDOC International Guidelines for Museum Object Information. [IGMOI. **資料情報カテゴリ指針**.])
https://www.getty.edu/publications/categories-description-works-art/(**（標準類，内容）**CDWA (Categories for the Description of Works of Art). [**芸術作品記述カテゴリ**.])
https://cidoc.mini.icom.museum/working-groups/lido/(**（標準類，構造）**LIDO (Lightweight Information for Describing Objects).)
https://www.getty.edu/publications/virtuallibrary/0892365722.html(**（標準類，内容）**Object ID. [**全文は“**Read Online**”または“**Download PDF**”**.])
https://cidoc-crm.org/(**（標準類）**The CIDOC Conceptual Reference Model. [CIDOC-CRM, ISO 21127. **概念参照モデル**.「Resources」**より最新版**.])
https://authorities.loc.gov/(**（ツール・典拠データ類）**Library of Congress Authorities. [LC-NAF**を含む**.])
https://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/(**（ツール・典拠データ類）**Web NDL Authorities.)
https://www.getty.edu/research/tools/vocabularies/index.html(**（ツール・典拠データ類）**Getty Vocabularies. [AAT(**芸術建築関係シソーラス**), TGN(**地名シソーラス**)**等**.])
https://vraweb.org/resources/cataloging-cultural-objects/(**（文化遺産資料およびその画像の目録化）**CCO, Cataloging Cultural Objects. [**全文は“**Open PDF in Lightbox**”**.])
https://www.getty.edu/research/publications/electronic_publications/introimages/(**（デジタル化方法等紹介例）**Introduction to Imaging (online). revised edition.)

[授業外学修（予習・復習）等]

○受講期間中に1回以上，博物館情報・メディア論の観点から，京都大学総合博物館の常設展示または企画展示・特別展示を見て，展示の背後にある博物館活動やそれらに対応する情報・メディアについて，考察すること。受講者各人の専門等により，他の館園等の展示を対象としてもよいが，そのばあい当該館園等を選択した理由を付すこと。
○受講者各人の専門に関係する各所の館園等でインターネット上に公開されているデータベース，デジタルアーカイブ，その他のオンライン資源を探し，そのうち1つ以上に対し閲覧・検索等じっさいに使用すること。そこで結果表示されるデータの背後にある博物館活動や資料管理，データ管理のための情報システムの仕様等などについて，考察すること。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者各人は，それぞれの専門分野の基礎的知識をもち，講義の内容と関連づけることのできる想像力が必要となる。
受講に際して，インターネット上の情報資源をWWWブラウザで調査できること，ワードプロセッサ文書や表計算データシートを作成できること，電子メールを使えること，等の基礎的技能を持つことがもとめられる。課題では，実習的に資料管理の具体的データの作成をもとめることがある。
「博物館情報・メディア論」であるにもかかわらずアーカイブズの素材を用いることへの疑問は，まず講義担当者の用意する各講の話題を聞いた後に受け付ける。積極的に，なるべく講義時間中に（受講者全員で共有できるよう）質問を提出されたい。
講義時間中だけでなく，KULASIS**の授業連絡メールを使って，総合博物館への臨時教室変更，課題，補足等を伝えることがある。受講者には，授業連絡メールにも注意されたい。**

博物館情報・メディア論(5)へ続く↓↓↓

博物館情報・メディア論(5)

[実務経験のある教員による授業]

①分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容
該当教員：五島敏芳，実務経験：国文学研究資料館助手・助教8年（歴史資料情報管理・情報環境管理ほか），京都大学総合博物館講師17年（館業務および京都大学デジタルアーカイブシステム管理）

③実務経験を活かした実践的な授業の内容
国文学研究資料館の歴史資料情報管理，京都大学総合博物館業務および京都大学研究資源アーカイブ事業実務とくにデジタルアーカイブシステム管理の経験をふまえ，博物館情報・博物館資料情報管理の概要を解説する。

[主要授業科目（学部・学科名）]